令和 4 年度第 5 回未来会議（全体会）　議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
書記・広報　鈴木　豊

日時：令和 4 年 8 月 21 日（日）13:30～15:20
（各分科会の打ち合わせは 17:20 まで）

会場：西集会所

出席者：（順不同、敬称略）
須都　紘（会長）、伊藤　智子、黒部　實（以上　副会長）
鎌田　卓（事務局長・会計）、鈴木　豊（書記・広報）
黒田　勝行、田口　信義、谷猪　富貴子、中谷内　政之、平井　誠三
山地　祐輔、山田　勲、山田　修、渡辺　昇
欠席：蔵田　かほり、中世古　昭一

配布資料：
① 議題
② 人事に関する審議事項
③ 生駒市コミュニティバス「たけまる号」鹿ノ台線　実証運行出発式・試乗会、8 月度乗車実績（報告）
④ 「高齢者分科会」活動報告書

○　会長挨拶
・8 月 13 日（土）には、3 年ぶりに納涼祭（第 44 回）がフル・スケールで開催され、盛況であった。帰省された方もたくさん参加され、スローガンである「ふるさとの絆、世代でつなぐ納涼祭」の趣旨どおりだった。実行委員会の皆様をはじめ関係者のご尽力に対して、感謝と敬意を表したい。
・7 月 31 日（日）には鹿ノ台コミバスの実証運行の出発式と試乗会が開催され、8 月 1 日（月）からは実証運行が開始されている。この件については、のちほど報告する。

・生駒市のコロナ新規感染者数はここ数日、300 名を超えており、増加傾向が続いている。地域としての対応は自治連合会で検討中であるが、未来会議としては当面、「三密」の回避、換気の徹底、マスク着用、手指の消毒及び手洗いの励行等の基本的な感染症予防対策を実行しながら、活動を続けたい。

○　未来会議役員交代、新構成員、傍聴者の提案

・書記・広報担当の鈴木さんについて、転勤等があって仕事が多忙となり、担当としての作業時間が取れないため、退任したいと申し出があった。構成員としては引き続き、活動していただけるとのことである。

・幹事会で検討した結果、「やむを得ない」と判断し、書記・広報担当について、8 月末の退任を了承した。

・後任としては、多忙ななかではあるが、9 月から当分の間、伊藤副会長に書記・広報担当の兼務をお願いしたい。本人の内諾は得ている。

・未来会議として承認をお願いしたい。

　→　拍手で承認。

・次に、未来会議構成員の推薦について、提案する。3 月に梅本さんと須田さんが未来会議を退任されたこともあり、6 月度から「子育て分科会」の専門委員として活動している三室哲哉さん（南 1 丁目）に、9 月度から未来会議構成員に加わっていただきたい。本人の内諾は得ている。

・三室さんは関東で教育の仕事に携わったあと、現在は生駒市で教育政策を担当されている。その知見と経験を未来会議で活かしてもらいたいので、幹事会として推薦したい。構成員への参加について、いかがでしょうか。

　→　「異議なし」の声があり、承認。

・承認をいただいたので、未来会議規約の規定により、9 月の連合会役員会での承認をお願いしたい。

・続いて傍聴希望者について提案する。現在、大阪大学共創機構で特任研究員（常任）をされている矢倉誠人さんから、未来会議の傍聴希望が出ている。

・矢倉さんはこれまで総務省の事業である「地域まちおこし協力隊」として福岡県で活動されるなど地方創生に取り組んでおられたが、今年 4 月に生まれ故郷の生駒市に帰ってこられた。ライフワークとして奈良のまちづくりに取り組みたいという希望があって奈良県に相談したところ、鹿ノ台、特に ECOKA 委員会を紹介された。

・先日、須都会長と山田 ECOKA 委員会委員長が会って話を聞いたところ、生駒市の中でも先進的な活動をしている鹿ノ台の取り組みを勉強したいということであった。
・（山田 ECOKA 委員会委員長）ECOKA 委員会の活動を勉強したいという申し出は、今回で 3 回目である。全国的に知名度があがってきているということだと思う。申し出される方は、環境だけに特化して勉強したいということではなく、幅広く地域活動全般に興味を持っているということがわかってきたので、未来会議の傍聴がよいと考えた。
・9 月度から未来会議を傍聴することについて、承認をお願いしたい。
　→　「異議なし」の声があり、承認。

意見交換
・三室さんは生駒市の職員として活動に参加するのか。
　→　自治会員であり、地域の住民として参加してもらう。

○　鹿ノ台コミバス実証運行の開始について
・7 月 31 日（日）に鹿ノ台コミバス実証運行の出発式と試乗会が開催された。
・ふれあいホールで来賓の皆様から挨拶を受けたあと、会場をいきいき広場に移して、テープカット後に来賓試乗会を行った。
・来賓は小紫市長、生駒市公共交通活性化協議会、生駒市自治連合会、生駒警察署及び奈良交通からの 16 名であった。鹿ノ台からは、自治連合会役員 9 名、各委員会・関連団体 12 名、停留所設置に協力いただいた住民の皆さん 6 名、コミバス委員会・サポーター13 名の 40 名が参加された。
・出発式では、来賓の皆様から温かい祝辞と励ましの言葉をいただいた。
・テープカットを小紫市長はじめ 7 名にお願いし、鹿ノ台中学校吹奏楽部部員によるファンファーレを合図に、来賓試乗会第 1 便が出発した。バス中の鹿ノ台の案内は、山田（勲）さんにお願いした。
・午後からは住民体験試乗会として、3 便を運行した。3 便とも満席で、立っておられる方も多い状況となり、住民の皆さんの関心が高いことが伺えた。
・生駒市広報広聴課による取材も受けた。「いこまち」10 月号に掲載予定である。
・鹿ノ台自治連合会 Web サイトに「鹿ノ台コミバス」のページを新設したほか、黒田さんに制作していただいたフォトムービーもアップしている。フォトムービーは「結ネット」にもアップし、多くの方に見ていただている。

・8 月 1 日（月）からは、実証運行が開始された。乗車実績としては、8 月第 1 週はそれぞれの日で目標の 60 名を超えていたが、第 2 週以降は 30 数名から 50 名程度の乗車数となっている。8 月で平均すると 50 名となり、最も少ない想定であった 40 名は超えているものの、目標である 60 名には到達していない。
・第 2 週以降に乗車数が伸びなかった要因としては、猛暑が続く中で特に暑くなる午後 2 時以降の乗車数が少なかったこと、各医院やスポーツクラブがお盆休みであったことなどが想定される。
・今後、周知徹底を行うなど、乗車を促進する対策を実行していきたい。
・住民の皆さんは買い物や通院だけではなく、様々な用途に利用されている。子ども連れのファミリーが利用されているのを目にすることもある。
・新型のバスなので、車内は快適である。皆さんもぜひ一度ご乗車お願いします。
・（以下、黒部コミバス委員会委員長）コミバスの運行はすべて「ひまわりタイム」内で、割引率の高い「CI-CA ひまわり」を利用できるため、運賃単価が 15%低い。その単価で乗車数が 50 名ということは通常単価では 45 名相当となるため、収支としては非常に厳しい状況である。
・このままの乗車数では本格運行に進めない恐れもあり、効果的な対策を至急、実行することが必要であると考えている。
・住民の皆さんには「コミバスを利用するということはすなわち、地域の将来の発展に協力している」という意識を持っていただきたいと考えている。コミバスの本格運行が今回中止となって、しばらくしてからコミバスのニーズが高くなっても、もう二度と生駒市が運行を計画することはないだろう。
・実証運行は来年 7 月で終わるが、生駒市としては事業者選定などの手続きがあるために、来年 4 月には本格運行の可否を決定している必要がある。そのためには鹿ノ台において、8 月から来年 3 月までの実績を評価して、本格運行について地域として意思決定を行い、3 月には生駒市に提案する必要がある。
・このときに乗車数が一定の水準に達していなければ、鹿ノ台では本格運行したいという結論であっても、生駒市としては規定上、対応できないということになる恐れがある。評価される期間がたいへん短い点に留意すべきである。
・乗車数を増やすための具体策として、学研奈良登美ヶ丘駅前で鹿ノ台行きのバスを待つ人たち（従来の路線バスでもコミバスでもどちらでもよいはず）に、コミバスを利用してもらえるよう呼びかけるチラシを配布することを検討している。

意見交換

・厳しい状況であることを理解した。運転免許証を返上する人が増えている中で、地域内の商店街や医院に行く際にバス利用を呼びかける必要がある。

・来年に本格運行が決まったとして、再来年以降も毎年、利用状況を評価されるのか。

→ 毎年、評価されることはないが、利用者が少ないために市の定める上限を超えて補助金を出している状況となった場合、事業継続について生駒市公共交通活性化協議会で議論されることになる。

・荷物の積み下ろしを手伝うなどバス利用者を支援するボランティアは必要か。

→ 今の時点ではまだ必要ではないようだが、今後、ニーズの有無をしっかり見ていく。

○ 「子育て分科会」活動報告

鹿ノ台中央公園の魅力向上

・前回の全体会議で出た意見を踏まえ、子育て分科会で今後の対応を検討した。

・その結果、中央公園への住民の多様なニーズを把握し、「どのような中央公園が良いのか」など様々な意見の擦り合わせを行うため、ワークショップを行う方向で検討を進めることにした。

・そのためには、ワークショップの目的や、ここで決まったことが実際に実現に向けて動いていけるということが大切であるので、どのようなワークショップをどのように開催するかについて、分科会で検討していく。

・ワークショップには子どもは参加しないが、中央公園は子どもたちも利用している。子どもたちの意見も反映できるよう、例えば中央公園に遊びに来ている子どもたちへの聞き取り調査なども行っていく。

意見交換

・前々回に提案されたターザンロープの設置については、その後、どうなっているのか。生駒市の反応はどうだったのか。

→ 前回の議論を受け、ターザンロープ設置に向けた動きは止めている。

→ 生駒市に以前に確認した時点では、市として設置費用は出せないが、設置後の点検（事業者の保守を含む）は、市で行うということであった。

→ 分科会としては、設置費用はクラウドファンディングで賄うという案を

検討していたが、地域としての結論が出ていないとこの手法は使えないので、凍結している。

休日の親子イベント

・11 月 6 日（日）にふれあいホール他で開催される「たけのこ　ふれ愛 in しかのだい」について、生駒市家庭教育支援チーム「たけのこ」（以下「たけのこ」という。）で下記のとおり打ち合わせが行われた。
- スタッフは、たけのこメンバーと生駒市生涯学習課の方を含め 20 人程度(鹿ノ台からは 10 名程度)。
- チラシとポスターを各校園に配布して開催を告知
- 参加費は無料の予定

・イベントの内容として、「松ぼっくりツリー」や「雪」など、子どもたちが楽しめるクラフトを用意している。
・「鹿さんバイザー」は、組み立てると大人も使える鹿の形のサンバイザー。鹿ノ台校区の地域名にはどこも「鹿」が付くので、ぴったりだということになった。100 部くらいは用意できる。
・スポーツイベントの「ボッチャ」は、桜美会の協力をいただけることになっているので、高齢者と子供の世代間交流の場にもなる。

放課後子ども教室「にじ」

・これまで 9 回開催し、次回で 10 回目となる。外部講師を迎えて開催したのはうち 3 回であった。
・外部講師がいない日は、前半を勉強タイム、後半をお楽しみ会としている。お楽しみ会は当初、子どもたちが慣れない中で主催者側が準備をしてやってもらっていたが、だんだん子どもたちが自発的にそれぞれで好きなことをやるようになってきた。
・秋は体操の先生に再度来てもらって、運動会に向け徒競走の練習をする。

意見交換

・「にじ」が 10 回目を迎えるということで、節目として活動の記録を残しておくことも考えていただいたら、今後、鹿ノ台のトピックとしても活用できると思う。
　→　詳細をあとで教えて下さい。
・子育て分科会で検討すべきテーマかどうかわからないが、他地域と比較した鹿ノ台小・中学校の学力レベルについて、子育て世代には気になることだと思

う。未来会議として、子どもの学力を今まで以上に高めていく取り組みが必要なのではないか。例えばボランティアが得意とする学科を子どもに教える仕組みを作るなどである。

→ 転入促進の面からも学校の学力レベルは気になる点ではあるが、地域でできることとしては、子どもたちがしんどい思いをしないように下支えすることのほうが優先順位は高いと思う。

→ 学校と地域が両輪となって子どもを育成している。しんどい時期もあったが、子どもたちは現状、だいぶ落ち着いた状態である。地域から学力向上に働きかけるのは難しいので、学校とは相談しながらも学校に任せるしかない。地域には別に解決すべき課題が出てくるので、その際はご協力いただきたい。

→ 長年、小学校の課外学習を担当しており、子どもたちが落ち着いていることは実感している。

→ 学力には複合的な要因があり、また、現在に学校教育は正解にたどり着く道筋まで決めて教えるような側面があり、地域の大人がそれを知らずに教えるとテストで不正解にされたりと子どもが混乱する恐れもある。

→ 日本の教育システム全体の課題である。コンピュータの導入や自由な議論なども導入され、少しずつは変わってきているが、大きくは変わってこない。学力向上だけではなく、人間性向上ということも大切だと思う。

→ 学校では元々現場の業務がたいへんなうえに、国から様々な業務が降りてきて先生が忙殺されている一方で「働き方改革」の流れもあって、先生に業務負荷をかけることは困難である。その中で、他地域で成果を上げて来られた方が生駒市に採用され、次々に改善を実現させている。その秘訣は現場のニーズをしっかり汲み上げることにあると伺った。非常に大切なポイントだと思う。

→ 納涼祭では天体観測が行われた。教育の助けになるこのような取り組みが自治会でも行われると良いと思う。

・（須都会長）問題提起をしていただいたので、どのようにしていくかは一度、幹事会で話し合うことにする。

○　「高齢者分科会」活動報告

鹿ノ台支え合い準備委員会の報告

・役員会：7 月 19 日（火）
- 委員会規約の検討
- 支え合い活動の利用者となりうる方のニーズを具体的に把握する方法
- ボランティア募集案の検討及びボランティアをするうえでの注意事項(委員会委員、利用者に対して宗教的、政治的な働きかけをしない)

・全世話人会：7 月 25 日（月）
- ボランティア募集チラシの検討:募集チラシを鹿ノ台全世帯に配布することにより、利用者・ボランティア双方に委員会の取り組みを理解していただく
- 利用者は、現時点においては鹿ノ台の住民のみとする

・役員会：8 月 16 日（火）
- ボランティア募集チラシの検討
- 利用者負担の公平性を担保するため、会費のほかに一回あたりの利用料金を金券で徴収
- ボランティア業務中の傷害等は、保険適用（再確認予定）
- ボランティアの業務用工具置き場として、運動公園内の旧連合会事務所の一部を利用

ボランティアについて

・ボランティアに対する説明会を、11 月に開催する予定としている。
・一番の気がかりは政治、宗教の勧誘である。ボランティアの募集の際には、「準備委員会や利用者に対して、宗教的、政治的な働きかけをしない」ことを明示しておく。違反する方には活動をご遠慮いただく。
・ボランティアの工具について、最初は各ボランティアに持ち込んでもらう。住民の方からの寄付も募りたい。

利用者の負担

・会費だけでは実現が難しいので、会費に加えて、一回あたりの利用料金を金券で徴収することを検討している。現金の受け渡しはしない。利用料金については、目安となる料金表を作成する予定である。
・一回目はお試しで無料とする。（その時、希望者は入会申込みを受付ける）
・生駒市のシルバー人材センターは原則として 30 分で 500 円。これよりも安価に設定したい。

その他（利用方法など）

・「まちの便利屋さん」としてまず動き出し、課題が出てくれば立ち止まって検討していく。来年２月くらいから活動できるようにしたい。
・ご婦人の一人住まいの方には 2 名で対応する。可能であれば、女性のボランティアと一緒に行き、話し相手になる。
・ボランティアで対応できないときは業者に任せることになるが、信頼できる業者かどうかと、その業者で対応できる範囲を確認しておいて、紹介する。

意見交換

・ボランティアはどのくらい集まりそうか。
　→ 少ない想定では 2～3 人となるかもしれない。対応できそうな人を知っているので、そのような方に参加していただきたい。特に女性の方に入っていただけるとたいへんありがたい。
・ボランティア募集のチラシは各家庭に配布するのか。
　→ 3,000 枚印刷し、各家庭に配布する。
・お金をやり取りするということであるが、支え合い準備委員会が事業をやるということなのか。
　→ 送迎のボランティアでは、利用者から直接お金を受け取れないので、利用者は年会費を支払う仕組みにしている。
　今回はこれと似た仕組みとしたい。サービスを利用するにあたって無料にすると却って遠慮する人が多いために、年会費とは別に安価な利用料金を徴収する仕組みとしたい。ローカルビジネス（事業）ではない。
　→ 金儲けではないので、なるべく利用者の負担が少ないようなやり方にしたい。
・利用料金は、担当したボランティアが受け取るのか。
　→ そうではなく、委員会に払ってもらう。
　→ 実費（木材購入費など）が発生した場合は、利用料金とは別に、その実費は負担してもらう。
・利用者のニーズが大きいのにボランティアの数が少なくて対応できない、ということにはならないのか。若い人からの対応依頼に追われて、本当に支援が必要な一人暮らしの高齢者のニーズに対応できないことを危惧している。
　→ 対象は、「フレイル（虚弱）等の方で、地域に出にくい住民の方」としている。
・民業圧迫にはならないのか。利用料金が安すぎて、民間事業者の便利屋さんや

シルバー人材センターの業務を奪うことにはならないのか。

→ 鹿ノ台で生駒市シルバー人材センターに登録されている方は、昨年 12 月時点で 2 名だけである。この 2 名では鹿ノ台全体のニーズに対応することは不可能であるとセンターの担当から聞いている。

→ また、今回のボランティアでは、民間事業者では対応していない植木の水やり、季節家電の入れ替えなど簡単な作業を支援するもの。民間事業者がやっている「専門技術が必要な作業」は対象としていない。

→ 交流サロンでコーヒーを出すときにも民業圧迫にならないかという議論となり、周辺の喫茶店などに説明に行った経緯がある。結果的にこれまでクレームが上がってきたことはない。

・実施にあたっては利用者とのマッチングが非常に重要となってくる。

○ 「交流分科会」活動報告

・今後のまちづくりにはどのような活動・施策が必要か、またそれらを実現するためにはどんな体制が必要かなどを引き続き検討中であり、まだ結論に至っていない。進展があり次第、全体会議に報告する。

○ 未来会議・自治連合会役員会 連絡会について

・未来会議発足時に自治連合会と意見交換をしたが、自治連合会からは「未来会議が独り歩きすること」への懸念が示されていた。そのため定期的に自治連合会役員会と連絡会を持つこととされ、昨年度は 9 月に連絡会を開催している。

・納涼祭も終わったので、下記のとおり 9 月に連絡会を開催したいと考えている。田口連合会会長の事前承認は得ている。

- 日時：9 月 18 日（日）13:30～15:00
- 会場：ふれあいホール
- 議題（案）
  1. 未来会議の取り組み・自治連合会との関係
  2. 自治連合会から未来会議への要望
  3. 意見交換

・未来会議への要望については、できれば事前に役員会で議論していただけるとありがたい。

→　（田口連合会会長）承知した。

・連絡会終了後に、未来会議の全体会議を開催する。分科会の時間は取れない。

〇　各分科会の打ち合わせ

・各分科会に分かれて、打ち合わせを実施

次回

日時

令和 4 年 9 月 18 日（日）13:30 – 16:00

未来会議・自治連合会役員会　連絡会議　13:30 - 15:00

未来会議全体会議　15:00 - 16:00

※「南北」の構成員及び幹事は 13:15 集合

※　分科会は開催しない

会場

ふれあいホール

主な議題（予定）

1. 未来会議・自治連合会役員会　連絡会議
   - 未来会議の取り組み・自治連合会との関係
   - 自治連合会から未来会議への要望
   - 意見交換
2. 未来会議全体会議
   - 各分科会からの報告
   - 共通報告事項
   - その他

以上